



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
4,690 人	2,201 世帯	17 自治会	37.6 %

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point

地域活性化を目指した特産品の開発

大神活性化推進協議会（以下、大神協議会）は既存の部会とは別に自然薯（じねんじょ）部会を発足し、大神協議会の事業として自然薯栽培を行っています。

〈新たな取組の自然薯栽培〉

現在大神協議会の自然薯部会の会員は15名、兼業している人からリタイアした高齢者まで様々な人が挑戦しています。自然薯栽培に取り組んで6年目になり、令和5年女子倶楽部も発足しました。少しずつ地区内に広がってきています。

自然薯栽培に取り組んだきっかけは地区内の耕作放棄地・空き家の増加でした。大神地区には農地付の住宅が多く、空き家が増えれば耕作放棄地が増えてしまいます。農地活用事業の1つとして自然薯栽培を行っています。



▲自然薯部会で情報交換・勉強会を行っています。

〈自然薯で地区に活気を〉

令和元年に栽培された自然薯を「ねばりごし一本」と名付け商品化しました。収益は全てつくった人たちに入り、大神協議会ではブランド定着や技術向上への場づくりなどを支援しています。令和6年度は通年販売を目指し別府大学短期大学部食物栄養科と冷凍保存についての研修会を開催しました。

自然薯栽培に従事する若者が増えることで、空き家に伴う耕作放棄地の減少と若者定住促進を目指しています。



◀ねばりごし一本の主な販売は量販店・直売所での販売です。

大神活性化推進協議会の概要

平成29年12月設立。大神地区公民館を拠点として活動しています。地区内に小学校・中学校が1校ずつあり、以前から公民館活動・地区活動が活発な地区です。

〈主な活動〉

- 環境整備部会：糸ヶ浜海浜公園環境整備
- 学習支援部会：地元の歴史を学ぶ学習会・講演会の開催、大神地区公民館の活動を支援・協力
- イベント推進部会：大神うまいもの収穫まつり



▲糸ヶ浜海浜公園環境整備として約2kmにわたる遊歩道の草刈りを行っています。



▲うまいもの収穫祭りでは、販売に加え自然薯のPR活動に力を入れています。

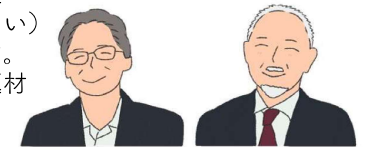


今回お話を伺いました！

「大」きい・「神」様と書く大神地区の魅力

大神地区は日出町の中でも特に人口が減少している地区です。しかし大神地区には、原風景・人のつながりなど旧来の日出町の良い所が残っています。また日出町内外からも親しまれている糸ヶ浜や全国で唯一現存する殿様の風待ち茶屋の襟江亭（きんこうてい）など、守りたい場所・歴史建造物が数多くあります。

令和5年度、大神活性化推進協議会学習会の題材として「大神の地名」について歴史と共に地区の人と話しました。大神地区に住み続けている人にも、これから大神地区と関わる人にも、もっと魅力を伝え続けたいと思っています。



佐藤会長 工藤事務局員

問い合わせ先
はこちら

電話：0977-72-2015
メール：ayt.tomo-330528@ctb.ne.jp

住所：速見郡日出町大字大神
2958-1 大神地区公民館

谷むらづくり協議会



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
1,592 人	696 世帯	14 自治会	43.5 %

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point

小学校を巻き込んだ移住事業

谷むらづくり協議会（以下、むらづくり協議会）では、移住支援に力を入れており、様々な取組で谷地区の情報や魅力を発信しています。

〈小学校と連携した移住対策〉

むらづくり協議会では、谷小学校と連携して移住者獲得の取組を行っています。地区イベントのぬきいまつり開催中に小学校の公開授業や保護者との懇談会等を実施しています。

谷小学校は、校区外に住んでいる人も住まいはそのままに谷小学校に通うことができる「**小規模特認校**」に選ばれました。すぐに移住とはならずとも**谷地区と関係を築いてもらい、ゆくゆくは移住先を選んでもらおう**という考えです。



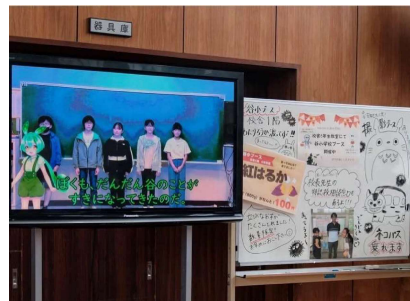
▲公開授業は実際に小学校の様子を間近で見られる貴重な機会です。

〈ぬきいまつりについて〉

むらづくり協議会では、毎年秋に谷小学校で「ぬきいまつり」を開催しています。

「ぬきい」とは「ほんわかい感じの暖かさ」という意味で、谷地区の暖かさに触れてほしいと始めたイベントです。毎年1000人以上来場しており、名物イベントになっています。

移住者向けのブースもあり、地区外の人にも谷地区の魅力を感じてもらおう機会となっています。



▲ぬきいまつりの移住者向けブースは移住を検討する人の相談窓口になっています。

谷むらづくり協議会の概要

令和4年4月設立。現在休園中の谷幼稚園舎を拠点としています。「自然に学べ、自然と遊べ」が育つ元気な田舎「谷むら」をテーマに、4つの部会を置き、児童数が減少している谷小学校の存続に向けた移住促進等に取り組んでいます。

〈主な活動〉

むらづくり部会：見守り活動、高齢者支援
移住促進

広報部会：ホームページ、SNS等の更新
子育て・共育：谷小学校との連携

文化部会
環境・保全部会：耕作放棄地の有効活用、
ぬきいまつりの開催



▲通常会議は拠点である谷幼稚園で実施しています。



◀ぬきいまつりの出し物ステージは毎年大盛況です。



▲役員を中心に通学路の見守り活動を行っています。

谷小学校の継続を目指して

現在、谷小学校は閉校の危機が迫った状況にあります。この危機状況を解決しようと検討した結果、移住促進や谷小学校の特定認定校の広報を進めていこうという結論になりました。

現在、空き家及び空き宅地情報などを地区で協力しながら情報収集しています。移住希望者が安心して居住できるための環境整備をしていきたいと考えています。谷むらづくりの活動に多くの方々が参加して、楽しく活力ある地区にしていきたいです。



田中会長

今回お話を伺いました！

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：なし
メール：yufushi.tanimura@gmail.com
住所：由布市挾間町谷699



HP



Instagram

大津留まちづくり協議会



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
439人	252世帯	7自治会	56.9%

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point

地区の魅力を伝える商品開発

大津留まちづくり協議会（以下、大津留まち協）では、特産品の開発として、地区で取れた農作物を加工し、販売や飲食店の運営を行っています。

〈おいちゃんうどん〉

大津留まち協では「おいちゃんうどん」の販売を行っています。元々は毎月実施している「おおつるマーケット」の来店として提供していました。令和5年からおおつるマーケットだけでなく、毎月第1・2・3水曜日におおつる交流センターでおいちゃんうどんの提供を始めました。

おいちゃんうどんは、大津留地区で栽培された小麦で作った麺と由布市ゆかりの料理人監修のスープをベースにしています。地区内外のリピーターも非常に多く、現在ふるさと納税の返礼品にできないかと検討中です。



▲魅力が詰まったおいちゃんうどんのメニューは1種類。月ごとにメニューが変わります。

〈特産品開発の今後〉

大津留まち協は、おいちゃんうどんの開発で、多くの人に大津留のことを知ってもらいたいと考えています。由布市のふるさと納税では、寄附金の使い道としてまちづくり協議会を選択できます。

大津留まち協では、応援してもらえる地区を目指して、様々な活動を展開し、大津留まち協のファンづくりに尽力しています。



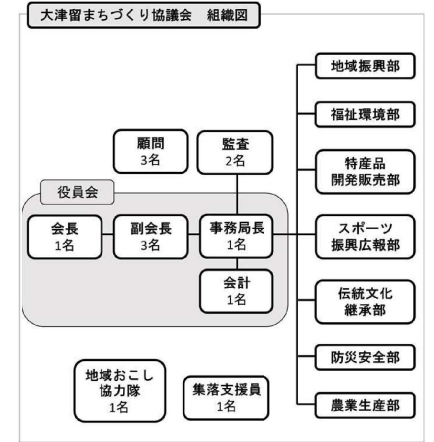
▲大津留まち協のHPにある、ふるさと納税の特設ページ。

大津留まちづくり協議会の概要

平成29年度に設立。地域活性化施設「おおつる交流センター」を拠点に活動しています。月に1回程度役員・専門部長会議を実施し、各活動や情報を共有できる体制をつくっています。

〈主な活動〉

- 地域振興部 : おおつるマーケット（月1回）
おおつる夏祭り
- 福祉環境部 : シャベリ場かじか（月1回）
- 特産品開発販売部 : 野菜等販売所の開設・料理
- スポーツ振興広報部 : グランドゴルフ四季杯
- 伝統文化継承部 : 竹細工教室の作品展示
- 防災安全部 : 自主防災組織との連携
- 農業生産部 : 耕作放棄地の米等の生産活動



▲大津留まち協の組織図。



▲夏祭りにはおおつるマーケット以上の出店があり参加者に喜ばれています。



▲おいちゃんうどんを生んだおおつるマーケット。

色々な人から愛される地区へ

大津留まち協では「住んでいる方が今後も住み続けられる地区」、「地区外に出た人が戻ってきたいと思えるような地区」、「多くの人々が大津留を訪れ、移住したくなるような地区」を目指しています。

そのためには、大津留地区のファンを増やして、地区内外のつながりをつくるのが大切だと考えています。おいちゃんうどんだけでなく、もっと大津留の魅力を知ってもらえるような取組を続けていきたいです。



首藤事務局長

今回お話を伺いました!

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：なし
メール：otsuru.machikyo@gmail.com
住所：由布市庄内町東大津留636

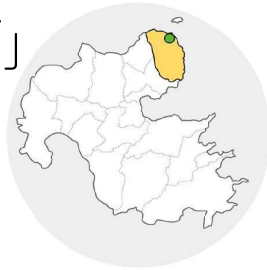


HP



Instagram

くまげ支えあいの会「大輪」



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
969人	509世帯	6自治会	55.9%

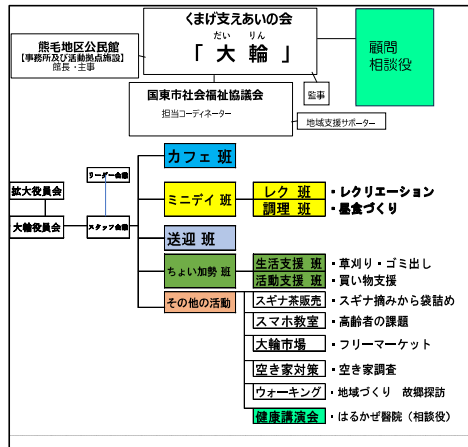
令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point 地区全体を巻き込んだ生活支援事業

くまげ支えあいの会「大輪」（以下、大輪）は6地区から70人程度活動会員を集め、地区のつながりを育み、住民が心身共に健やかに生きられる地区を目指して、支え合い活動を運営しています。

〈支え合い活動について〉

支え合い活動とは、地区の居場所づくりや生活支援、サロン等の健康づくりなどを行うことを指し、大輪では地区全体で取り組んでいます。支え合い活動のスタッフは、担当する班や活動に細かく分けられており、多くの人が関われる体制を敷いています。また、国東市社会福祉協議会から生活支援コーディネーターが派遣されており、連携を取りながら事業を進めています。



▲組織図にも支え合い活動の班分けが細かく記載されています。

〈活動内容〉

毎週金曜日の13:00～15:00に熊毛地区公民館でカフェを開いており、大輪のメンバーがコーヒーや紅茶を100円で淹れています。

有料で草刈りや電球交換等生活全般の支援を行う、ちょっとした暮らしの困りごとの解決「ちょい加勢（かせ）」に取り組んでいます。

内容は以下のとおりです。

- ①草刈り 30分400円
- ②ゴミ出し 10分100円
- ③生活全般（電球交換など）30分300円（予約制・地区住民限定）



▲ちょい加勢で最も多いのは草刈り、次いでゴミ出しです。依頼した人からも大変喜ばれています。

くまげ支えあいの会「大輪」の概要

平成29年7月設立。熊毛地区公民館を拠点に活動しています。平成29年の2月から生活支援の説明会を実施し、行政と社会福祉協議会と一緒に地域づくりについて検討してきました。設立後、地区住民のニーズ調査、平成30年の模擬カフェ実施を経て今の体制になりました。



〈主な活動〉

- ・ミニデイサービスの実施（月2回のレクリエーション・食事会）
- ・カフェの運営 ・健康講和
- ・ちょい加勢（生活支援・外出支援）
- ・スギナ茶、ポン菓子の販売
- ・フリーマーケット大輪市場
- ・スマホ教室 ・大輪マーケット



▲スギナ茶販売は自主財源の獲得を目指し取り組んでいます。

- ▲カフェ・
- ▲フリーマーケット・
- ▲ミニデイサービスは、参加者だけでなくスタッフも楽しんで取り組んでいます。

継続して支え合いができるように

熊毛地区が支え合い活動を始めてから、今まであまりなかったような自治会を超えたつながりが生まれました。一方で、このふれあいの場の良さを知らずに引きこもっていたり、「まだ動ける」からと、フレイル（虚弱）のまま過ごしている人が多くいます。参加された人は楽しいと言ってくれるのですが、一回目に来てもらう部分が難しいと感じています。今後は、積極的な声掛けと、まず一回来てもらえるような取組を検討していきたいです。



溝井会長

今回お話を伺いました！

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：0978-68-1976
（国東市社会福祉協議会）
住所：国東市国見町小熊本101番地
熊毛地区公民館



HP

Instagram

中央地区振興協議会



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
4,568 人	2,376 世帯	26 自治会	39.6 %

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point

多世代とつながるPTAとの連携

中央地区振興協議会（以下、振興協議会）では、小中学校やPTAと連携し、一緒に活動を展開しています。

〈やっちゃん会との連携〉

中央地区にある白杵小学校、白杵東中学校のPTAには学校行事の企画運営を行う「やっちゃん会」があります。振興協議会では、地区でイベント等を実施する際にやっちゃん会との連携会議を開き、**情報共有**を行っています。また、振興協議会の行事である防災キャンプに白杵東中学生とその保護者が参加しています。



▲白杵東中学校と連携し防災キャンプを行いました。

〈連携するメリット〉

中央地区は世帯数や自治会も多く、活動を周知するのも大変です。小中学校と情報共有をすることで、様々な世代への周知を可能にしています。また、小中学校からしても、協議会を通じて学校行事をお知らせしたり、防災講演会の講師を振興協議会から派遣してもらうなど相互にメリットが生まれています。

加えて、やっちゃん会の保護者が、地区活動に関心を強め、そのまま**振興協議会のメンバー**になってくれているケースもあります。新しいメンバーが参画することで、**次世代へのバトンタッチ**も考えやすくなっています。



▲3世代交流会などのイベントを通じ多世代交流の機会をつくっています。

中央地区振興協議会の概要

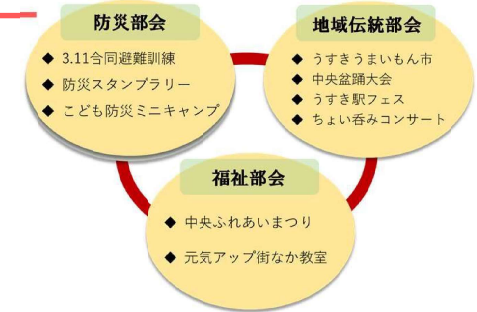
平成28年3月に設立。中央地域ふれあい交流館「ほっと館」内に協議会事務局を設けており、住民の寄り合い場になっています。活動は、福祉・防災・イベントに分けられ、それぞれ福祉部会・防災部会・地域伝統部会が担当しています。

〈主な活動〉

福祉部会：健康教室の開催など

防災部会：小中学校連携による合同避難訓練など

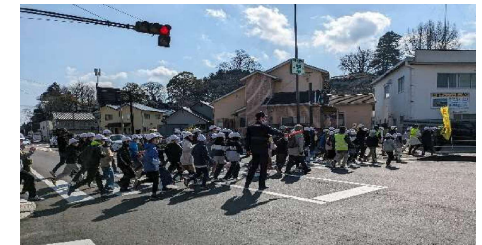
地域伝統部会：ちょい呑みコンサートなど



▲部会の図は3つの部会が支え合うようなイメージです。



▲ちょい呑みコンサートは地区内外からたくさんの人に来ていただきました。



▲合同避難訓練を地区全体で行っています。

若い世代へのバトンタッチ

中央地区は文字通り白杵市の中央にあり、一番大きい地区です。多くの人をまとめるのは難しく感じることもあります。一方で、携わってくれる人がたくさんいらっしゃる、中央地区振興協議会はそのおかげで支えられています。

事務所はそんなに大きくないですが、毎日様々な世代の人がこの事務所を訪れてくれ、頼りになる若い力も秘めています。今後も、若者世代とのつながりを大切に、様々なイベントにチャレンジしていきたいです。同時に、次の世代につなげる準備も皆さんと進めていきたいです。



三田村事務局長

今回お話を伺いました!

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：0972-64-0118
メール：ren.cyuuuou@gmail.com
住所：白杵市大字白杵
2-107-562



Facebook



Instagram